

『世界にひとつのワンピース』

株式会社銀座マギー 横浜ポルタ店

田中 英美子

春の少し前、お孫さんの入学式の服を探しているというお客様がご来店されました。

いくつかご案内したけれど、なかなか「これ！」という一着が見つからない様子。

そんなとき、お客様がふとバッグから一枚の紙を取り出し、「実はね、孫が“こんな服が着たい”って描いてくれたの」と笑顔で見せてくださった。そこには、カラフルなクレヨンで描かれたワンピースと大きなリボン。思わずこちらまでほっこりしてしまいました。

その絵を見ているうちに、「このデザインを形にできたら素敵だな」と思い、自社のオリジナルワンピースをベースにリメイクすることをご提案した。少し驚いた表情を見せたお客様も、「そんなことができるの？」と目を輝かせてくださいました。

驚かれたお客様に、「せっかくの入学式ですから、世界にひとつだけの一着と一緒に作りましょう」とお伝えしました。

打ち合わせでは、絵に描かれていたリボンの大きさやスカートのふくらみ、袖の形など、細かい部分まで一緒に考えた。絵のピンク色を実際の生地でどう表現するか、お直し屋さんとも何度も細かな部分まで丁寧に相談しながら進めました。完成したワンピースは、絵の中の可愛らしさを残しつつも、上品で特別感のある仕上がりになりました。

数日後、お客様が笑顔で来店されました。「見て、これ！」とスマートフォンを差し出すと、そこには満開の笑顔のお孫さん。リメイクしたワンピースを着て、入学式の校門の前でポーズを取っていました。「本当にありがとう。あの子、自分の描いた服を着て入学式に行けたのが嬉しくて、朝からずっとニコニコだったの」と話すお客様の目が、うっすら涙が光っていました。

その姿を見て、胸の奥がじんわり温くなりました。服を通して誰かの「嬉しい」や「特別な思い出」に寄り添えること、それがこの仕事の一番のやりがいだと改めて感じました。

商品を“売る”だけでなく、“想いを形にする”ことこそが、アパレルの本当のあたたかさだと感じました。お孫さんの描いた一枚の絵が、私にとっても忘れられない宝物になりました。